

カメラが捉えた2022年の観光業界



ツーリズムEXPOジャパン2022が東京ビッグサイトで開かれた。コロナ禍で2年ぶり、東京では4年ぶりの開催で、世界78の国と地域、1018の企業・団体が出演し、4日間で延べ12万2000人が来場した(速報値)(10月3日付)

蘇る"旅の足音"



アジア最大級の旅行見本市「ITBアジア」がシンガポールのマリナベイ・サンズ・エキスポ&コンベンションセンターで3年ぶりにリアル開催された(11月7日付)



全国旅行支援開始

政府は、新型コロナウイルスの感染悪化で実施を合わせていた観光需要喚起策「全国旅行支援」を10月11日に開始した。その後、観光庁は同政策をいったん終了し、割引率などを変更し、年明け以降に再開すると発表した。年内の対象期間は12月27日まで(10月3日、12月12日付)

旅行業を照らす新たな光

旅行業各社が22年度入社式、辞令交付式を行い、新入社員を迎え入れた。右は新入社員を激励するクラブツーリズム・酒井博社長。下は東武トップツアーズ・百木田康二社長の訓示(11月18日付)



国内の優れた鉄道旅行を表彰する「鉄旅オプサイヤー2021」の結果発表と授賞式が「大宮鉄道博物館」(さいたま市)で開かれ、最高位のグランプリはJTBとJR北海道、日本航空が昨年秋実施した「貸切列車HOKKAIDO LOVE! ひとめぐり号で行く 秋の北海道4日間」が選ばれた。(写真はグランプリを受賞したJTBの松成諭さん<右から3人目>と日沼景子さん<同4人目>)。同5人目は米田昭正実行委員長<KN-T-C Tホールディングス社長>(5月2日付)

待らに待った"もてなし"。体勢整え、観光立国実現へ再始動



全日本ホテル連盟は、昨年から延期を余儀なくされていた創立50周年記念式典を開催した(11月28日付)



全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会は第100回記念の全国大会を開催。多田会長は次の100年に向け団結を呼び掛けた(9月26日付)



観光庁の「訪日観光実証事業」で来日した海外からのツアー客が4月24日、成田国際空港に到着した。参加者は自国で日本へのツアーを扱う旅行会社の担当者(5月30日付)



東北6県の祭りを一堂に集めた「東北絆まつり」が秋田市で3年ぶりに大規模開催された(6月6日付)

一般社団法人 日本旅館協会 懇話会



日本旅館協会は令和4年度通常総会と理事会を開催し、大西雅之副会長を新会長に選出した。写真は大西新会長(右)と浜野浩二前会長(6月20日付)



全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部は、塚島英太副部長を次期部長に選出した。写真は塚島次期部長(右)と星永重部長(9月19日付)



「温泉文化」をユネスコ無形文化遺産に登録しようと、自民、公明両党の国会議員でつくる議員連盟が発足。都道府県や民間企業などとも連携しながら、最短で2026年の登録を目指す(11月21日付)

変わる伝統、生まれる伝統、心に息づく伝統



全国の伝統芸能団体が一堂に会する「日本の祭りinやまぐち2022」(地域伝統芸能全国大会「地域伝統芸能による豊かなまちづくり大会やまぐち」)が開催された。同大会は今回30回の節目を迎えたこともあり、最後の開催となった。写真は若国行波の神舞(10月17、24日付)



日本旅館協会は、会員施設を対象とした外国人材特定技能認定試験合格者とのマッチング会を東京都内で開催した(10月17日付)



日本ホテル協会は、適切な新型コロナウイルス感染対策実施下での立食宴会のデモを実施。スーパーコンピュータ「富岳」を用いた検証を経て、適切な感染対策下での立食宴会の感染リスクの低さを証明した(11月7日付)

快挙!



APAホテルは、北京五輪のスノーボード女子ハーフパイプで銅メダルを獲得した、観光業界の五輪スター、富田せな選手を表彰した。富田選手はアパリゾート上越妙高に2018年6月から21年12月まで専任社員として勤務していた(3月14日付)



観光経済新聞社は2021年度「人気温泉旅館ホテル250選認定証授与式」を東京の浅草ビューホテルで2年ぶりに開催した(1月31日付)